

付録 G Excel 2007 における 主な変更点

ここでは、Excel VBA の実行環境として、Windows Vista と Excel 2007 を使う方のための注意事項を紹介します。

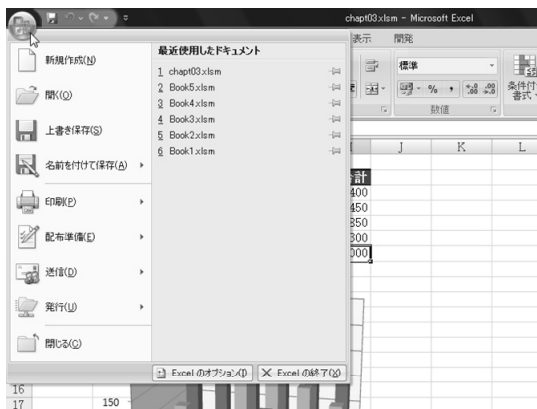
まず、Windows Vista に関しては、画面デザインが変わったものの、基本的な画面構成や操作方法はほとんど変わらないので、本書を利用する際に特に意識することはありません。

しかし、Excel 2007 に関しては、操作メニューのインターフェースが一新されたこと、セキュリティ設定やファイル保存の方法が変わったことなど、いくつかの重要な変更点があります。

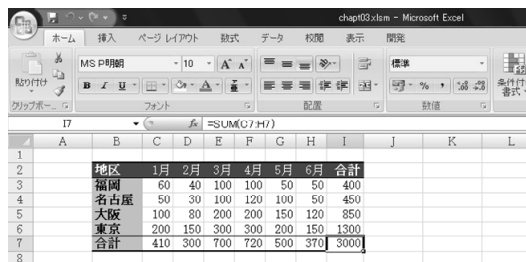
従来の Office アプリケーションでは、コマンド（処理命令）を選択するための方法として、メニューバーとツールバーが用意されていました。

これに対して、Excel 2007 を含む Office 2007 のアプリケーション群では、新たに設けられた [Microsoft Office] ボタンとリボンに、すべてのコマンドが割り当てられています。

[Microsoft Office] ボタンに割り当てられたメニュー



リボンに割り当てられたコマンド(メニュー)



Office ボタンとリボン

[Microsoft Office] ボタンは Office アプリケーションの画面左上にあるボタンです。

ここでは、ファイルの新規作成と既存ファイルの呼び出し、編集したファイルの保存と印刷など、もっとも基本的な機能が割り当てられています。これは、従来のメニューバーにあった [ファイル] メニューに相当するものです。

タイトルバーと編集画面の間であって、多くのボタンが配置された部分がリボンです。

Excel のリボン上部には、[ホーム]、[挿入]、[ページ レイアウト]、[数式]、[データ]などのタブがあり、タブごとに関連する機能がまとめられています。そして、タブをクリックすることで、必要なリボンに切り替えることができます。

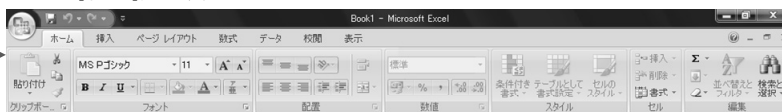
また、常に表示されているタブ以外にも、編集対象に応じて自動的に呼び出される [グラフツール] タブや [描画ツール] タブ、オプション設定で表示される [開発] タブなどがあります。

Excel のリボンと [開発] タブ

マクロの編集や VBA プログラミングを行う際には、[開発] タブを表示しておく便利です。

初期設定では表示されませんが、オプションを使って設定を変更すると、それ以降は常に表示されるようになります。

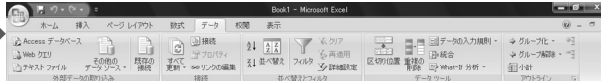
■Excelの[ホーム]タブのリボン



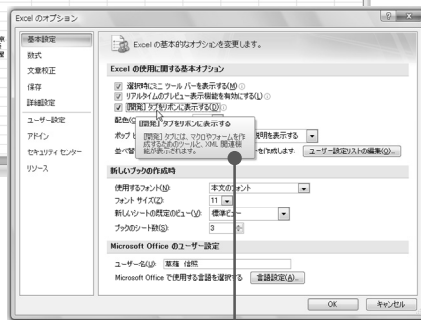
■[数式]タブ



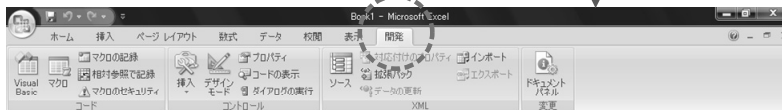
■[データ]タブ



[Microsoft Office] ボタンをクリックし、[Excelのオプション] をクリックすると、ダイアログボックスが現れます



■ [開発] タブをリボンに表示する を選択すると、[開発] タブが常に表示されます。これによって、マクロやVBAプログラミングの開発がしやすくなります。



■ グラフの編集を行うと、[グラフ ツール] として新たなタブが現れます。



Excel 2007のマクロ機能は、リボンの[表示]タブにある[マクロ]ボタンから利用することができます。しかし、前ページで示したように[Excel のオプション]設定を変更して、リボンに[開発]タブを表示しておけば、マクロやVBAプログラミングの開発作業がしやすくなります。

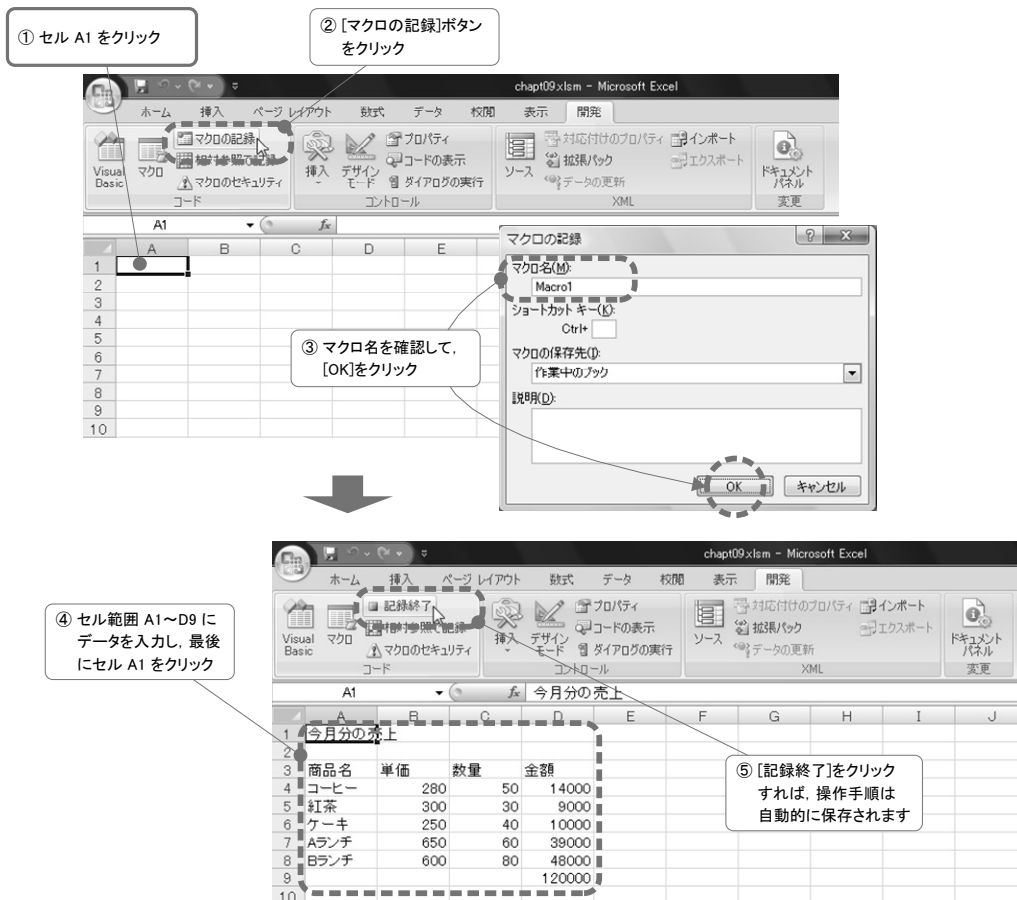
ここからは、[開発]タブが表示されているものとして、説明を進めます。

マクロの記録

[マクロの記録]をクリックし、マクロ名を設定すれば、マクロ記録が開始されます。あとは、[記録終了]をクリックするまでの間に行った、すべての操作が自動的に保存されます。

下図は、「第09章 セルのデータと数式」で紹介したマクロ記録 (Macro1) の例を、Excel 2007 で実行する手順を示しています。

- ①セル A1をクリックします。
- ②リボンの[開発]タブにある[マクロの記録]をクリックします。
- ③[マクロの記録]ダイアログボックスが現れるので、マクロ名 (Macro1)を確認して、[OK]をクリックします。
- ④ワークシートにデータや数式を入力し、最後にセル A1をクリックしておきます。
- ⑤リボンの[開発]タブにある[記録終了]をクリックします。

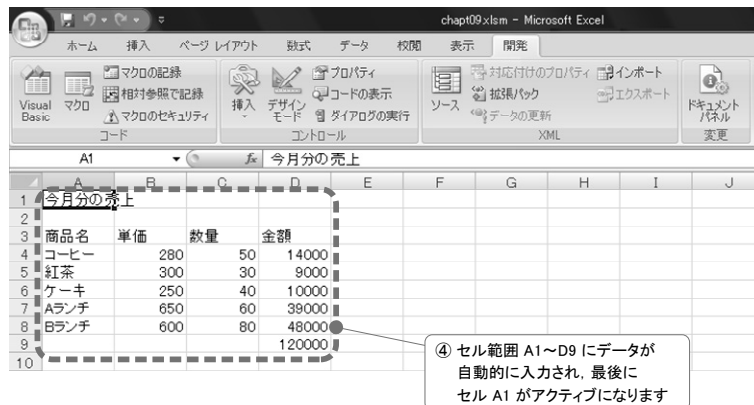
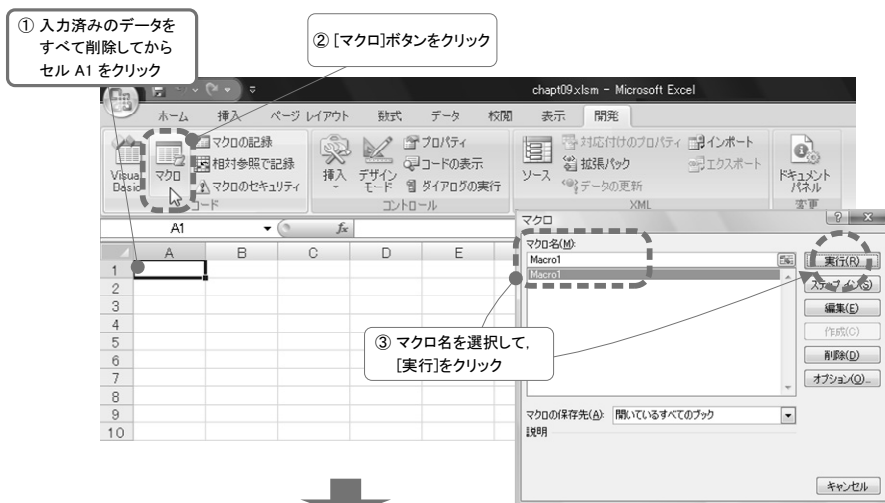


マクロの実行

記録したマクロを再生する方法は、マクロ名を選択して実行ボタンをクリックするだけです。

下図は、前ページで保存したマクロを呼び出して実行する手順を示しています。

- ① 入力済みのデータをすべて削除してから、セル A1 をクリックしておきます。
- ② リボンの [開発] タブにある [マクロ] ボタンをクリックします。
- ③ [マクロ] ダイアログボックスが現れるので、マクロ名 (Macro1) を選択してから、[実行] をクリックします。
- ④ ワークシート上にデータや数式が自動的に入力され、最後にセル A1 がアクティブになって、再生が終了します。



マクロの編集 ; VB Editor の起動

記録されたマクロを編集するためには、Visual Basic Editor (以下、VB Editor) を起動する必要があります。

下図は、保存したマクロを呼び出して編集する手順を示しています。

なお、VBA プログラムを直接編集するような場合には、リボンの [開発] タブにある [Visual Basic] ボタンをクリックして、VB Editor を起動します。

① [開発]タブの[マクロ]をクリック
※ [Visual Basic]ボタンをクリックしてもよい

② マクロ名を選択して、[編集]をクリック

③ Visual Basic Editor が起動されます

④ [表示 Microsoft Excel] をクリックすれば、Excelの画面に戻ります

```

Sub Macro1 ()
    ' マクロ記録による表作成
    Range("A1").Select
    ActiveCell.FormulaR1C1 = "今月分の売上"
    ActiveCell.Characters(1, 3).PhoneticCharacters = "コンゲツパン"
    ActiveCell.Characters(5, 2).PhoneticCharacters = "ワリアケ"
    Range("A3").Select
    ActiveCell.FormulaR1C1 = "商品名"
    ActiveCell.Characters(1, 3).PhoneticCharacters = "ショウヒンメイ"
    Range("B3").Select
    ActiveCell.FormulaR1C1 = "単価"
    ActiveCell.Characters(1, 2).PhoneticCharacters = "タンカ"
    Range("C3").Select
    ActiveCell.FormulaR1C1 = "数量"
    ActiveCell.Characters(1, 2).PhoneticCharacters = "スウリョウ"
    Range("D3").Select
    ActiveCell.FormulaR1C1 = "金額"
    ActiveCell.Characters(1, 2).PhoneticCharacters = "キンガク"
    Range("A4").Select
    ActiveCell.FormulaR1C1 = "コーヒー"
    Range("A5").Select
    ActiveCell.FormulaR1C1 = "紅茶"
    ActiveCell.Characters(1, 2).PhoneticCharacters = "コウチャ"
    Range("A6").Select
    ActiveCell.FormulaR1C1 = "ケーキ"
    Range("A7").Select
    ActiveCell.FormulaR1C1 = "Aランチ"
    Range("A8").Select
    ActiveCell.FormulaR1C1 = "Bランチ"
    Range("B4").Select
    ActiveCell.FormulaR1C1 = "280"
    Range("B5").Select
    ActiveCell.FormulaR1C1 = "300"
  
```

ここにマクロ(プログラム)が記録されており、内容を直接編集することができます

マクロ有効ブックとセキュリティ

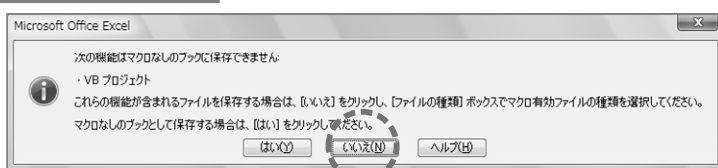
マクロや VBA プログラムは、自動的に Excel のファイルに内蔵され、ワークシート上のデータなどと一緒に保存することができます。ただし、このようなファイルを保存する際には、ファイルの種類として「マクロ有効ブック (*.xlsm)」を選択する必要があります。

一方、このようなファイルを開こうとすると、Excel のセキュリティ機能が働き、マクロウィルスが存在する可能性を警告するメッセージが現れます。これは必ずしもウィルスが存在することを意味するものではないので、マクロを有効にして開きます。しかし、出所が明らかではないファイルの扱いには注意が必要です。

Excel 2007 で保存できるファイルの種類のうち、マクロ (VBA プログラム) を有効にして保存できるものは次の 3 種類です。

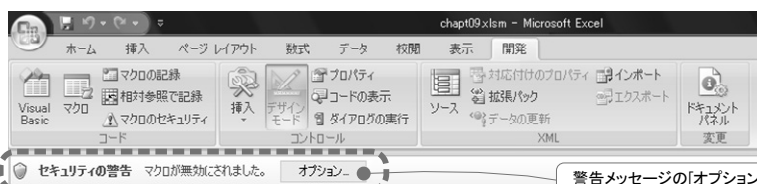
- ▶ Excel マクロ有効ブック ; 拡張子 .xlsm
- ▶ Excel バイナリブック ; 拡張子 .xlsb
- ▶ Excel 97-2003ブック ; 拡張子 .xls

マクロを含むファイルを保存しようとするとき、このような警告が表示されることがあります

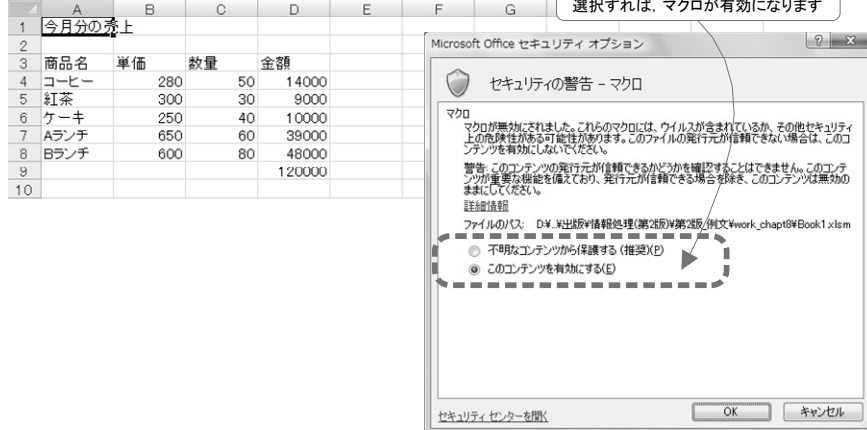


[ファイルの種類]として、マクロ有効ブック (*.xlsm) を選択してから保存します

マクロを含むファイルを開こうとすると、「セキュリティの警告」が表示されます



警告メッセージの[オプション]をクリックして、[このコンテンツを有効にする]を選択すれば、マクロが有効になります



A1 今月分の売上				
1	今月分の売上			
3	商品名	単価	数量	金額
4	コーヒー	280	50	14000
5	紅茶	300	30	9000
6	ケーキ	250	40	10000
7	Aランチ	650	60	39000
8	Bランチ	600	80	48000
9				120000
10				